

2022 年度  
教職課程  
自己点検・評価報告書

2023 年 4 月  
洗足学園音楽大学・大学院

## 洗足学園音楽大学 洗足学園音楽大学大学院

### 教職課程認定学部・学科一覧

- ・ 洗足学園音楽大学 音楽学部 音楽学科
- ・ 洗足学園音楽大学大学院 音楽研究科

### 全体評価

洗足学園音楽大学では、音楽を学ぶことを通して身に付けていく「一人一人が成長する力」と「他者と協働する力」を大切にしています。これは、教職課程において身に付けていかねばならない「豊かな人間性」と重なっていくと考えています。教職課程では音楽を学んでいるということを基軸にしながら、「教わる側」から「教える側」に視点をシフトしたときに気付く事柄や、本学の特色である多彩なコースの学生同士の交流によって、多様性を受け入れ他者の立場から考える力、コミュニケーション力、判断力、責任感等が育まれています。「求められる専門性」とともに、このようにして「豊かな人間性」を育むことができる教員養成は本学の強みといえるでしょう。

また、教職課程及び教員の養成に関わる業務は「教員養成カリキュラム委員会」や「教職センター」を機能させており、全学的な取り組みとして、教職課程に関わる教職員の共通理解に基づいて協働的に実施されています。

教職免許法の改正に伴い、この報告書を公表することになりましたが、本学の教職課程の運営に当たっては、建学の精神に則り大学や教職課程の目標に照らして教職課程の自己点検・評価を実施することが教育の質を維持し向上させるために必要なことだと考えています。今回の教職課程自己点検・評価で整理された課題についても他部署との連携を深め、PDCA サイクルを活用して、改善してまいります。

なお、今回の、教職課程自己点検・評価は、その適切な実施のために、文部科学省ガイドラインを踏まえた全国私立大学教職課程協会による『「教職課程自己点検評価報告書」作成の手引き』を参考にして実施いたしました。

洗足学園音楽大学  
音楽学部長・音楽科研究科長  
小嶋 貴文

## 目次

I	教職課程の現状及び特色	1
II	基準領域ごとの自己点検評価	2
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	2
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	5
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	7
III	総合評価	9
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	10
V	「現況基礎データ一覧」	11

## I 教職課程の現況及び特色

### 1 現況

(1) 大学名: 洗足学園音楽大学

(2) 所在地: 神奈川県川崎市高津区久本2-3-1

(3) 学生数及び教員数 (2022年5月1日現在)

学生数: 音楽学部教職課程修者数	553名/学部全体	2373名
音楽研究科教職課程履修者数	14名/研究科全体	175名
教員数: 教職課程科目(教職・教科計)	12名/学部・研究科全体	69名

### 2 特色

本学では、創設者である前田若尾先生が掲げられた「理想高遠、実行卑近」を実践標語とし、「若き学徒をして、真の人生の目的に目覚めさせ、さらに人間の天職を悟らせ、謙虚にして慈愛に充ちた心情(謙愛の徳)を養い、気品高く、かつ実行力に富む有為な人物を育成する。」という建学の精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、その応用的能力を展開させるとともに、幅広く深い教養を培い、建学の精神に基づいて人格を陶冶し、謙愛の徳を備え、気品高く、国際的視野に立ち、実行力に富む人材を育成し、もって文化の向上に寄与することを目的としている。2024年度に学園創立100周年を迎えるにあたり、「自立」「挑戦」「奉仕」の精神の下、絶えず変化する社会の要請に応え、学校教育に邁進するため、学園創立100周年及びその先の未来に向けて中期計画(2020～2024)が策定されている。この計画で示された理念や方針を踏まえ、大学の理念・目的に基づいた体系的な教育課程を編成し、学生が「主体的な学び」をすすめられるように、建学の精神を具現化できる教員養成に向けて取り組んでいる。

本大学で認定されている免許教科は下表のとおりである。

免許状の種類	教科	基礎資格
中学校教諭一種免許状	音楽	学士の学位を有すること(大学を卒業)
高等学校教諭一種免許状		学士の学位を有すること(大学を卒業)
中学校教諭専修免許状		修士の学位を有すること(大学院を修了)
高等学校教諭専修免許状		修士の学位を有すること(大学院を修了)

上記の免許状取得のための教職課程では①教職への熱意と使命感、②豊かな人間力と思いやり、③教育に関する専門知識、④社会人としての常識と教養、⑤総合的な実践的指導力を身に付けた「教師」を育成することを目的として掲げ、教育意欲にあふれ、音楽に関する専門的知識を持ち、学校現場で対応できる実践的指導力を身に付けた教員の養成を全学的な協力と指導体制のもとに実施している。

## II 基準領域ごとの自己点検・評価

### 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### (1) 基準項目 1-1 教職課程教育に対する目的・目標を共有

##### [状況説明]

本学では、教育基本法及び学校教育法に則り、音楽の探究により、高い芸術性、専門分野の知識・技術を修得するとともに、日々の地道な研鑽を積み重ねる中、個性と創造性を発揮しながら「主体的な学び」を実践することで、人生の目的、本当の自分を見出し、豊かな人間性と実行力を備え自立した人間を育成することを目的としている。本学の目的に基づき、教員養成においては全学的に養成しようとする教師像として以下のような資質・能力を形成することに努めている。

##### ①教職への熱意と使命感

(関心・意欲・態度、情熱、積極性、学び方、言語力、向上心 等)

##### ②豊かな人間力と思いやり

(誠実、愛情、受容、共生、カウンセリングマインド、生徒理解、人権感覚 等)

##### ③教育に関する専門知識

(音楽科指導力、専門知識、技術・技能、生徒指導力、研究心・探究心 等)

##### ④社会人としての常識と教養

(基本生活習慣、協調・協働、責任感、ルール・マナー 等)

##### ⑤総合的な実践的指導力

(コミュニケーション能力、思考力・判断力、問題解決力 等)

この教職課程教育の目的・目標はホームページにて公開するとともに学生には「教職課程履修ハンドブック」やガイダンスにて周知している。また関係する教職員には授業開始前の研修会や関係会議にて周知している。

##### [長所・特色]

- ・本学の理念・目的を実現するための様々な方針、ポリシーが体系的に整えられておりホームページにて公開されている。
- ・入学年次から卒業年次まで、年次ごとに複数回の教職ガイダンスを実施しており、免許取得までに必要な手続きや流れ、履修カルテの記入・利用方法等についても周知している。

##### <根拠となる資料・データ等>

資料1-1-1 洗足学園音楽大学 HP 教育情報 DATA BOOK 概要、ポリシー

<https://www.senzoku.ac.jp/music/about/data.html>

資料1-1-2 洗足学園音楽大学 HP 教員養成についての情報公開【1】

[https://www.senzoku.ac.jp/music/about/pdf/data/2022/kyoin\\_1.pdf](https://www.senzoku.ac.jp/music/about/pdf/data/2022/kyoin_1.pdf)

資料1-1-3 2022 年度教職課程履修ハンドブック 「教員を目指す人の心構え」

## (2) 基準項目 1 - 2 教職課程に関する組織的工夫

## [状況説明]

本学では、教職課程の運営や教職指導を全学的に行う組織として教員養成カリキュラム委員会（教員 8 名、事務職員 2 名）を設置している。教員養成カリキュラム委員会では以下の事項を審議する。

- ①教員養成カリキュラムの編成に関する事項
- ②教職及び教科に関する科目の実施に関する事項
- ③教育実習の実施に関する事項
- ④介護等体験の実施に関する事項
- ⑤教職指導の実施に関する事項
- ⑥教育現場や教育委員会等の連携協力に関する事項
- ⑦教員採用試験対策に関する事項
- ⑧教職課程年報に関する事項
- ⑨教職課程の自己点検評価に関する事項
- ⑩その他教員養成カリキュラムに関する事項

この委員会での決定事項は大学教授会及び大学院教授会を通じて全学に確実に周知されるようになっている。この委員会によって教職課程の質向上に向けた FD 研修会や SD 研修会が企画・運営・実施され、教職課程年報も年に 1 回発行している。また、教員養成の状況についてはホームページに掲載し、情報公開を行っている。

さらに教員養成カリキュラム委員会と連携をしながら、教職センター（教員 2 名、事務職員 4 名）が教職課程及び教員養成に関わる業務の全般的な円滑運営等のために機能している。実施内容は以下のとおりである。

- ①教職課程の企画運営
- ②教職課程の学習に必要な情報の提供
- ③教職課程履修者の学習支援及び学習相談
- ④教育実習の実施に関する事項
- ⑤介護等体験の実施に関する事項
- ⑥教員養成に関する調査・研究
- ⑦教員養成に必要な資料の整備
- ⑧教職ガイダンスの実施
- ⑨教職課程に関するテキストの作成
- ⑩各種委員会の事務

教職センターでは、必要な情報発信、事務手続きを行う他に教職課程履修学生と教員をつなぐ役割をしている。各コースの AA（アカデミックアドバイザー）との連携等、各部署との協働体制もできており、必要に応じて履修学生の個別対応を行う等、学生を日常的に支援している。さらに「教職課程履修ハンドブック」を毎年作成し、履修の方法や条件などを案内したり、教育実習や介護等体験に臨む心構えや準備しておくこと、先輩からのアドバイス等を記載しガイダンスで活用している。

## [長所・特色]

- ・教員養成カリキュラム委員会により全学的に教職課程の運営や教職指導を実施している。
- ・教職センターが機能することにより、円滑な教職課程のカリキュラムの実施や教職課

履修学生に応じたきめ細やかな指導・相談体制ができています。

[取組上の課題]

- ・教室ごとの ICT 環境は整っているが、中学校、高等学校では個別のデバイスを使って授業を受けている現状から、それを踏まえた模擬授業が出来るような環境を整える検討をしていく。

< 根拠となる資料・データ等 >

資料1-2-1 洗足学園音楽大学 HP 教職課程に関する情報公開【2】

[https://www.senzoku.ac.jp/music/about/pdf/data/2022/kyoin\\_2.pdf](https://www.senzoku.ac.jp/music/about/pdf/data/2022/kyoin_2.pdf)

資料1-2-2 洗足学園音楽大学教員養成カリキュラム委員会規程

資料1-2-3 洗足学園音楽大学教職センター規程

資料1-2-4 洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学リポジトリ

[https://senzoku.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_snippet&index\\_id=476&pn=1&count=20&order=17&lang=japanese&page\\_id=13&block\\_id=21](https://senzoku.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=476&pn=1&count=20&order=17&lang=japanese&page_id=13&block_id=21)

資料1-2-5 2022 年度教職課程履修ハンドブック

「履修方法」、「教職課程の単位」、「教育実習」、Q&A

資料1-2-6 洗足学園音楽大学 HP 教育情報 DETABOOK 教室設備

[https://www.senzoku.ac.jp/music/about/pdf/data/2022/setsubi\\_classroom1.pdf](https://www.senzoku.ac.jp/music/about/pdf/data/2022/setsubi_classroom1.pdf)

## 基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

### (1) 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材(学生)の確保・育成

#### [状況説明]

基準項目 1-1 で示した本学教職課程が目指す教員像は「教職課程ハンドブック」や「履修カルテ」に記載し、入学時にガイダンスを行うとともに、1 年生で受講する「教職論」の授業時にも教員養成の目標や教師に求められる心構えを周知している。教職センターは年度ごとに履修学生の単位修得状況を確認しており、4 年間で教員免許状を取得できない学生には単位取得状況を周知するとともに教職課程履修の意思を再確認している。また、課題のある学生には個別面談を実施するなど、個々の学生の適性或資質に応じた教職指導を行っている。

#### [長所・特色]

- ・音楽科教育法Ⅲ、Ⅳでは1 グラスの学生数が十数人であり、少人数編成であることから、きめ細かい指導の下での模擬授業を繰り返し演習できる。
- ・履修カルテに教員として求められる資質・能力について数値化し、各年度末に自己評価レーダーグラフを作成させている。自分に足りないところを視覚的に捉えることができるので自覚を促すとともに年次ごとにレーダーグラフが変化するので視覚化された自らの成長が次の学びの意欲につながっている。

#### [取組上の課題]

- ・プレイヤーを目指して入学した学生が多く、もともと教職課程を履修する学生の割合は高くないが、さらに年々減少しており、2022 年度は5 年前に比して 10%減の 27% となっている。他方で、ここ数年は途中でやめる学生の割合が減りつつあり、4 年生で半数減だった状況が、少しではあるが改善してきている。卒業単位に加えて教職科目の単位取得が必要だが、常に教員の魅力を伝え、教職を取り続けるモチベーションを高めたい。

#### <根拠となる資料・データ等>

資料2-1-1 2022 年度教職課程履修ハンドブック テキスト編 「教員を目指す人の心構え」

資料2-1-2 洗足学園音楽大学 HP 教員養成の情報についての情報公開【1】

[https://www.senzoku.ac.jp/music/about/pdf/data/2022/kyoin\\_1.pdf](https://www.senzoku.ac.jp/music/about/pdf/data/2022/kyoin_1.pdf)

資料2-1-3 洗足学園音楽大学 HP 教育情報 DATABOOK2022 ポリシー

<https://www.senzoku.ac.jp/music/about/data.html>

資料2-1-4 教職課程履修者数/大学1 年在学者数(履修率)

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
1 年 (履修率)	195/533 (36.6%)	209/551 (37.9%)	184/556 (33.1%)	192/580 (33.1%)	167/585 (28.5%)	178/645 (27.6%)	176/652 (27.0%)
2 年	170	152	154	136	149	138	148
3 年	150	129	117	122	108	132	111
4 年 (1 年次との差)	129 (▲114)	138 (▲90)	114 (▲100)	105 (▲90)	106 (▲103)	104 (▲80)	118 (▲72)



## (2) 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

## [状況説明]

教職課程履修学生の教員志望等の有無について学年ごとに年 1 回、アンケート調査を行い教員志望者の把握に努めている。教職志望者には教職センターの教員による面談を実施し、詳細を把握するとともに採用試験に向けたアドバイスを行っている。また、教職課程の内容をさらに定着させるための基礎講座や採用試験に向けての面接練習を実施している。さらに全学的にコースごとの AA（アカデミックアドバイザー）による個別面談が年に 2 回あり、教職センター所属の教員が必要に応じて AA と連携を図り、支援が必要な学生には個別に面談を実施している。

教職センターでは、首都圏の各教育委員会と連携して採用試験に関わる説明会をオンラインで実施したり、公立学校や私立学校の採用情報を、随時、ポータルサイトにて提供したりしている。毎年 2 月には教員採用試験合格者に体験を話してもらい、次年度の受験者に受験の見通しを持ってもらっている。

## [長所・特色]

- ・教職センターでは、所属する教員により教員志望学生と個別に面談を行う等、個人に寄り添ったキャリア支援が計画的に実施されている。非常勤講師も含め、教職課程を担当する教員には公立学校の管理職経験者が多いので教員採用試験の基礎講座や面接練習も効果的に行われて、学生の支援につながっている。

## [取組上の課題]

- ・教職に就こうとする学生が免許取得者に比して少ないことが課題である。特に正規教員を目指して教員採用試験の受験を希望する学生が少ない。受験勉強に対する苦手意識が強く、あきらめてしまう学生も多いので、教員採用試験対策講座等を通じて、具体的な対策例を示して試験に向けてのイメージを持たせ、授業やガイダンス等で教職の魅力について発信していく。

## &lt;根拠となる資料・データ等&gt;

資料 2-2-1 洗足学園音楽大学 HP 教職課程の情報公表【4】

[https://www.senzoku.ac.jp/music/about/pdf/data/2022/kyoin\\_6.pdf](https://www.senzoku.ac.jp/music/about/pdf/data/2022/kyoin_6.pdf)

資料 2-2-2 洗足学園音楽大学 HP 教職課程の情報公表【5】

[https://www.senzoku.ac.jp/music/about/pdf/data/2022/kyoin\\_7.pdf](https://www.senzoku.ac.jp/music/about/pdf/data/2022/kyoin_7.pdf)

資料 2-2-3 洗足学園音楽大学 HP 大学案内 教職員募集状況

[https://www.senzoku.ac.jp/music/career/career\\_recruitment.html](https://www.senzoku.ac.jp/music/career/career_recruitment.html)

## 基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

### (1) 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

#### [状況説明]

教職課程カリキュラムについては学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応するように履修カルテの内容を踏まえて編成しており、教員養成カリキュラム委員会において審議・決定している。授業はシラバスに基づいて到達目標が達成できるように構成している。シラバスは教員養成カリキュラム委員会で、教育の質向上を目指してコアカリキュラムを踏まえ、内容を点検している。また、日常的な授業の実施、介護等体験、教育実習に関しては教職センターが管理し、円滑な教職課程カリキュラムの実施に努めている。

ICT 機器の活用について、実技科目を除く教職課程を担当する教員アンケートによれば、全ての教員がパソコン、プロジェクター等の ICT 機器を活用した授業を実施するとともに学生にも同様の機器を使わせ情報活用能力を育てる指導が行われている。また同アンケートによりアクティブラーニングについても全ての教員がグループワーク等の様々な授業の工夫により実施しているとの回答を得ている。

教育実習に関しては、3年生終了時点までに教職論、教育原理、教育心理学、教育課程論、特別支援教育概論、道徳指導法、教育相談の方法論、特別活動及び総合的な学習の時間の指導法、音楽科教育法、教職ピアノ実習の単位を修得することを教育実習派遣要件に定め、教職課程の基礎を習得した学生を教育実習に送り出すことにしている。教育実習の事前指導としては『教育実習ガイドブック～充実した教育実習をするために～』を作成し、ガイダンスや「教育実習法」でマナーや心構えに関わる指導を行っている。

#### [長所・特色]

- ・教職課程におけるカリキュラムの特色として「教職ピアノ実習」を上げる。学校において求められる実践的なピアノ伴奏技能の習得のための課目で、伴奏付けも含めた伴奏技能、弾き歌い等を内容としている。4～6人のグループ指導を基本としており、指導法を含めてお互いに学び合い、実践的指導力を身に付ける。半期ごとに3年生の後期まで授業は続くが、前提科目があるため、1回でも単位を落とすと4年間で教員免許状の取得は難しくなる。
- ・教育実習や介護等体験等に出向く際のマナーの向上を目指し、『教育実習への道』という動画を作成し、電話のかけ方や面接の受け方について学生がいつでも視聴できるようにしている。

#### [取組上の課題]

- ・ICT教育については、学校教育現場でICT教育の充実が求められていることを踏まえ個々のデバイスを活用した効果的な授業の在り方、不登校の生徒への活用、特別支援教育が必要な生徒への活用等、ICTリテラシーも含めICTを活用し情報活用能力を育てる教育への対応が全ての科目において、さらに求められる。

#### <根拠となる資料・データ等>

資料3-1-1 洗足学園音楽大学 HP 教員養成の状況についての情報公表【6】

[https://www.senzoku.ac.jp/music/about/pdf/data/2022/kyoin\\_8.pdf](https://www.senzoku.ac.jp/music/about/pdf/data/2022/kyoin_8.pdf)

資料3-1-2 教職課程履修ハンドブック 2022 「教職ピアノ実習」

資料3-1-3 教育実習ガイドブック

## (2) 基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

### [状況説明]

音楽科の教員としての基盤は自らもより良い表現者であることが大切である。本学では年間 200 回を超える演奏会が設定されており、在学中に演奏体験を積み重ねることは、豊かな音楽性を育む機会になると考えている。出演する学生が演奏会の制作にも携わっており、アートマネジメントを学んでいる。

教育に関わるボランティアは神奈川県、千葉県、川崎市、横浜市等の教育委員会や学校からの募集を受け、教職センターで学生への周知、調整等をして学生の参加を促している。また、介護等体験では、学生が初めて体験する内容が多く、自身の経験の無さを自覚し、貴重な体験として受け止めている。

「音楽科指導法」や「教育の基礎的理解に関する科目」「道德・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」等を担当する非常勤講師、教職センターの専任教員には、優れた教職経験のある方を可能な限り採用して、より具体的な実践事例から学ぶことで学生たちの基本的な実践的指導力を育てられるように努力している。また、教職実践演習での講演会では、教育実践に有用な専門性のある地域の有識者や現役の教員を講師としてお招きして、教育実践の最新情報が得られるようにしている。

### [長所・特色]

- ・特に社会福祉施設での介護等体験では演奏の機会を設けていただいております、学生の振り返りから利用者との相互関係の良さが伺える。
- ・本学は多くの演奏会が設定されているので音楽科の教員に必要な豊かな音楽性を実際の演奏を通して育むことができる。
- ・神奈川県教育委員会、東京都教育委員会、川崎市教育委員会、横浜市教育委員会、相模原市教育委員会とは常に連携しており、教員採用試験説明会等も大学向けに実施されている。

### [取組上の課題]

- ・今年度より、教員採用試験について前倒しで3年生でも受験できるようになった自治体が出てきた。これに伴って教員採用試験対策講座をどのように再構築していくか検討する必要がある。

### <根拠となる資料・データ等>

資料3-2-1 洗足学園音楽大学 HP 教育情報 DATABOOK2022 主催演奏会 一覧

[https://www.senzoku.ac.jp/music/about/pdf/data/2022/concert\\_list.pdf](https://www.senzoku.ac.jp/music/about/pdf/data/2022/concert_list.pdf)

### III 総合評価

今回の教職課程自己点検・評価は一般社団法人全国私立大学教職課程協会が作成した「教職課程自己点検評価基準」を参考にして、本学の状況に合うように取組観点を整理し、根拠に基づいた判断ができるように 48 の具体的なチェック項目を設定して行った。点検をした結果、「基準領域 1：教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく共同的な取り組み」「基準領域 2：学生の確保・育成・キャリア支援」「基準領域 3：適切な教職課程カリキュラム」とともに、全学的、組織的に実施されているという結論に至った。同時に取組観点が整理された結果、改善の方向も見えてきた。現代は、少子高齢化、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により社会構造や雇用環境は常に急速に変化している。今年度の点検が良くても次に向けての改善がなされなければ学校現場にマッチした教員養成は出来ない。例えばコロナ期を経て GIGA スクール構想が前倒しされ、学校での学びの在り方は大きく変わった。教職課程でもカリキュラムが変更され、その変化に対応しようとしているが、そのための ICT 環境はソフト面での教える人材においても、ハード面での機器の配備においても課題が残っている。今日の学校現場を取り巻く環境の変化が加速度的であることを考えると、今年度の課題は、たとえ懸念されるという段階のことであっても、次年度に向けて対応を始める必要がある。だからこそ、PDCA サイクルを活用して常に改善を図ることのできる教職課程であることが大切だと考えている。本学の 2020 年度～2024 年度中期計画における大学の基本目標には PDCA サイクルを確立し、継続的な改革・改善に必要な施策を講じることが明記されている。また、教職課程の運営や教職指導を全学的に行う「教員養成カリキュラム委員会」も「教職センター」も PDCA サイクルを意識して運営されている。今後は一つ一つの授業においても PDCA サイクルが機能するよう、教員一人一人が自覚し、FD 活動や SD 活動を通してさらに授業力を高めたい。

本学は単科大学であるが、18 もの多様なコースをもち、留学生も多い。小規模な大学であるからこそ、一人一人に対応した指導が出来ている。教職課程を履修した学生は、全学から多様なコースの学生が集い、学び合うことの良さを語り、教職課程の履修を通じて広い視野と高いコミュニケーション力や責任感を身に付けられたという。これこそ洗足学園音楽大学の教職課程である。これからも質の高い教員養成をめざして歩み続ける。

## IV 「2022 年度教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

2022. 5	教員養成カリキュラム委員会	教職課程自己点検・評価の情報共有
2022. 6	大学・大学院教授会	教職課程自己点検・評価の情報共有
2022. 7	教職センター会議	自己点検・評価の評価項目、実施手順の原案作成
2022. 9	教員養成カリキュラム委員会	自己点検・評価の評価項目、実施手順の審議、決定
	大学・大学院教授会	自己点検・評価の評価項目、実施手順を報告
	教職センター	自己点検・評価のための根拠資料の収集
2022.12	教員養成カリキュラム委員会	教員養成カリキュラム委員による点検・評価の実施
2023. 2	教職センター会議	点検項目についての評価原案作成
2023. 3	教員養成カリキュラム委員会	「教職課程自己点検・評価」を審議、確認
	自己点検・評価委員会	「教職課程自己点検・評価」を審議、確認
	内部質保証推進委員会	「教職課程自己点検・評価」を審議・決定
	大学・大学院教授会	「教職課程自己点検・評価」を報告
2023. 4	ホームページに公表	「教職課程自己点検・評価」を公表。
	教職センター会議	「教職課程自己点検・評価報告書」を作成
2023. 5	教員養成カリキュラム委員会	「教職課程自己点検・評価報告書」を審議、確認
2023. 6	自己点検・評価委員会	「教職課程自己点検・評価報告書」を審議、確認
	内部質保証推進委員会	「教職課程自己点検・評価報告書」を審議、決定
2023. 7	大学・大学院教授会	「教職課程自己点検・評価報告書」を報告
	ホームページに公表	「2022 年度教職課程自己点検・評価報告書」公表。
2023. 8	教員養成カリキュラム委員会	自己点検・評価を踏まえて次年度計画に反映

## V 現状基礎データ一覧

2022 年 5 月 1 日現在

設置者					
学校法人 洗足学園					
大学名					
洗足学園音楽大学・洗足学園音楽大学大学院					
1 卒業者数、教員免許取得者数、教員採用者数等					
① 昨年度卒業者数・修了者数			大 学：472 名 大学院：68 名		
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)			大 学：258 名 大学院：22 名		
③ ①のうち、教員免許取得者の実数 (複数免許取得者も 1 と数える)			大 学：96 名 大学院：11 名		
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)			大 学：19 名 大学院：0 名		
⑤ ④のうち、正規採用者数			大 学：4 名 大学院：0 名		
⑥ ④のうち、臨時的任用者数			大 学：15 名 大学院：0 名		
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ( 非常勤講師 )
教員数	48 名	15 名	6 名		1035 名